

バセドウ病は 20~30 代の女性に多い病気であり、症状だけでは他の病気と区別しづらく、糖尿病や高血圧症、心臓病などと見間違われることもあります。今回はバセドウ病の主な症状や原因など、病気の特徴について紹介します。

●甲状腺とは？

甲状腺は、のどぼとけの下にある臓器で、甲状腺ホルモンを作り、血液の中にホルモンを分泌し、全身の代謝を正常な状態に保つ役割を持ちます。縦が4センチほどの蝶が羽を広げたような左右対称の形をしており、厚みは約1センチ、重さは16~20グラム程度の比較的小さな臓器です。甲状腺から分泌される甲状腺ホルモンは脳や心臓、筋肉などの新陳代謝や酸素消費を高め、神経や身体の活動やエネルギーに関する調整などを行っています。



●バセドウ病とは？

甲状腺ホルモンは、全身の臓器に作用して代謝を司るなど大切な働きを持つホルモンです。バセドウ病は、この甲状腺ホルモンを過剰に産生する病気（甲状腺機能亢進症）の代表的な病気です。バセドウ病は男性よりも女性に多く発症し、年齢としては20代と30代を中心に40代にも多くみられます。

●バセドウ病の原因

バセドウ病は自己免疫疾患のひとつです。自己免疫疾患とは、細菌やウイルスなどから体を守るための免疫が、自分の臓器・細胞を標的にしてしまうことで起きる病気の総称です。

下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン（thyroid stimulating hormone : TSH）が甲状腺細胞のTSH受容体を刺激することによって甲状腺ホルモンは分泌されています。バセドウ病は、このTSH受容体に対する抗体が体内で作られてTSH受容体を刺激し続け、甲状腺ホルモンが過剰に産生・分泌されることで起こる病気です。

TSH受容体に対する自己抗体が作られる原因は分かっていませんが、バセドウ病になりやすい体質を持っている人が、何らかのウイルス感染や強いストレスや妊娠・出産などをきっかけとして起こるのではないかと考えられています。

●バセドウ病の症状

代謝をつかさどる甲状腺ホルモンや、交感神経系のカテコールアミンが過剰になるため、主に、動悸、体重減少、指の震え、暑がり、汗かきなどの症状がおきます。その他、疲れやすい、軟便・下痢、筋力低下、精神的なイライラや落ち着きのなさが生じることもあります。女性では生理が止まることがあります。甲状腺は全体的に大きく腫れてきます。目がとび出たり目が完全に閉じないなど眼の症状が出ることもあります。



●バセドウ病と妊娠

バセドウ病は生理不順などを引き起こし、不妊の原因となることがあります。また、早産や流産の原因となることもあるため、妊娠前から甲状腺機能を正常に保つよう治療につとめることが重要です。もし妊娠した場合も、治療を受けて甲状腺ホルモンの値をコントロールすれば、妊娠の継続も可能です。胎児に影響の少ない内服薬もあるので、妊娠を希望する場合は必ず医師に相談しましょう。



●バセドウ病の治療について

薬物療法

薬物療法は、最も簡便で外来で治療が始められるため、多くの場合に第1選択の治療法となります。薬によって永続的な甲状腺機能低下症になることは滅多にありません。欠点として、副作用が生じる可能性があることや、治療効果に個人差が大きく、一旦寛解（症状が一時的にでも消えたり、安定して薬を中止できること）しても再発率が高いことなどが挙げられます。薬物療法を2年以上継続しても薬を中止できる目途が立たない場合は、他の治療法を検討します。



放射性ヨウ素内用療法

放射性ヨウ素内用療法は、安全で効果が確実であり、甲状腺の腫れも小さくなります。再発がないように甲状腺機能低下をめざすと、甲状腺ホルモン薬の服用が必要になる場合があります。欠点としては、実施できる医療機関が限られていること、バセドウ病による眼の症状が悪化することがあること、小児や妊婦・授乳婦では行えないことなどが挙げられます。



甲状腺摘除術

甲状腺摘出術は、最も早く確実に治療効果が得られます。再発がないように全摘除を行うと甲状腺ホルモン薬の服用が必要になります。欠点としては、入院が必ず必要であること、手術痕が残ること、手術合併症（反回神経麻痺、副甲状腺機能低下症など）が生じるリスクがあることなどがあります。



●日常生活の注意点

ストレスによって病気が悪化・再発することがあるので、なるべくストレスを避けて規則正しい生活を送りましょう。

甲状腺ホルモンが高い時期に大怪我や手術を受けると甲状腺クリーゼとよばれる危険な状態になることがあるため、手術などはなるべく甲状腺ホルモンが正常になってから受けましょう。

また、タバコを吸っていると、薬の効きが悪かったり、眼の症状が悪くなりやすいので、禁煙しましょう。



バセドウ病は自覚症状に差があり、治療も長期にわたりますが、きちんと治療を受けることで寛解します。検査方法も確立されているので、疑わしい症状があらわれたら医療機関を受診するようにしましょう。



<参考> バセドウ病 - 日本内分泌学会、バセドウ病 - ヘルスケア大学